

長野県 公運協だより

第156号

発行所
長野県公民館運営協議会
長野市若里1-1-4
県立長野図書館内
電話 (026) 217-6256
FAX (026) 217-7015

令和五年度 公民館報関係者研修会

開催地 木島平村公民館

館長 芳原毅彦

今年度の公民館報関係者研修会は、北信濃の地、木島平村公民館にて開催されました。



開会式では、長野県北信教育事務所長 久保友二氏、開催地を代表して木島平村教育長 関孝志氏からご祝辞を頂戴しました。

開会式終了後、AC長野パルセイロ広報部長の森脇豊一郎氏から「広報の極意」を伝えると伝わるは異なる」のテーマでご講演を頂きました。

冒頭の話題は「広報の基本」についてでした。「広報に携わっている」といつの間にか「広報すること」が目的になりがちである。広報は手段であり、広報を通して成し遂げるべき目標を常に念頭に置くことが大切」として、具体的な事例でお話を頂きました。続いて「伝える」と「伝わる」ことの違い、5W1Hが大切とい

われながら、我々の日常生活ではいつの間にか曖昧にしていることに気付くことができました。そして最後に、相手に伝わるために必要なこととして、次の三点について説明を頂きました。

※相手の感性に働きかけ、心を動かすことを目指す

※伝えるべきものの価値・歴史・エピソードを語る

※映像の使用では対象が人なら笑顔が大切、そして常に相手の五感に訴える

この講演で館報作成の基本的な方向を示して頂けたと思います。

午後の分科会では、「読みやすい紙面づくり」「効果のある写真の撮り方」「公民館報の題材選び」と、午前の講演を受けて、更に具体的な内容に触れた研修を行いました。

この研修会が参加された皆様方のお役に立てたならば幸いです。

最後になりますが、会場準備等にご尽力頂きました中高飯水公民館運営協議会の皆様はじめ関係の皆様方に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

公民館の魅力を感じた研修



塩尻市中央公民館

館長 青柳信雄

しました。オンラインを活用した講座で、充実した時間を過ごすことができました。

前半の筒井さんのお話では、やればやるほど喜ばれる、公民館は楽しいところ、三つの「た」「楽しい、ためになる、頼りになる」と一つの「も」(もうける)が大切、今が未来につながっているな

この四月から、新任の公民館長になり、第一回公民館職員支援講座「公民館新任職員研修」に参加

ど、心にとめておきたい言葉をたくさんお聞きすることができました。

後半の県内各公民館の先進事例発表では、分館役員の負担を減らす工夫、SDGsを公民館の活動として位置づけた実践、公民館報を若い人に読んでもらうための工夫（QRコードをつける、カラーにする等）、中央公民館と地区館（分館）との関係のあり方など、今後参考になるアドバイスをいただきました。また、「公民館はやりたいことができる」ところ。自分の公民館ワークを決めて取り組むことが大切」は、私のこれからの指針になりました。塩尻市中央公民館と市内の地区館、分館では、夏休みの学習広場や親子で参加できる講座、サマースクール公民館など、社会福祉協議会やコミュニティ・スクールと連携して子どもに関する講座を数多く実施しています。

今後も、子どもが計画に参加したり、小中高生同士や子どもと地域の大人が関わり合ったりして、地域への愛着をさらに高められる企画を考えられたらと思っています。

リレーコラム

「長野県らしい公民館とは？」 ⑧

長野市立朝陽公民館 館長 高野 豊

長野市立公民館は二九館（一部は交流センターと改称）あり、様々な講座や利用者が団体（サークル）を作り活動しております。

長野市立公民館の特徴として、高齢者に向けた様々な学びの場を提供していることがあります。

高齢者の学びの場としては、長野県シニア大学がありますが、長野市立公民館でも高齢者を対象と



（七月二五日実施一六名参加）、「たっぷり落語」（八月八日実施三名参加）です。

あさひ大学は、伝統的に館長が中心となって企画・運営することとなっており、毎年の企画には苦勞もありますが、公民館利用者は女性が多い中、テーマによっては男性の受講者が多くなることもあり、やりがいを感じることもあります。

高齢者に学ぶ機会を多く設けることは、高齢者の健康維持、フレイル予防にも効果があり有意義な公民館事業であると考えます。

した「大学」と名の付いた連続した講座が四件あります。作新大学（更北公民館）、三輪教養大学（三輪公民館）、もみじ大学（中部公民館）、あさひ大学（朝陽公民館）です。

当公民館のあさひ大学は、年度九回の講座ですが学年とかは設けず、コロナ感染症以降は、一講座ずつ受講者を募集しております。

講座の内容は、「初夏のノルディックウォーキング」（五月三〇日実施一三名参加）、「認知症を学ぶ」（六月一四日実施三二名参加）、「写真で見る戦後の長野市」



ここに生きる

地域の課題に取り組む

佐久市中込公民館

館長 浅川 博

中込地区は以前は市の中心商業地の一つでしたが、佐久平地区の再開発によりその役割が減少し、地域の経済的活性化が一つのテーマになっていきます。



そのため、公民館として地域の中にある資源を有効活用しながら何か出来ることはないか、いろいろ検討しました。その中の一つとして、JRの中で日本一標高の高い所を走る高原鉄道「小海線」を活用した講座を開けないかと考えました。

講座開設にあたりJR小海線の協力が不可欠のため相談に出向き、公民館の意図をよく説明したところ、全面的な協力を得ることができ、事業内容は一緒に作り上げるという形になりました。

講座の目的は、小海線の利用者を増やすことよってそれを地域の経済的活性化に繋げる事です。内容は、小海線の魅力と見所やハイレールの見学、バーチャル小海線、小海線ぶらり旅などです。講師はラジオパーソナリティで鉄道愛好家の方に依頼をしました。対象は一般向けに加え佐久大学の授業の一環としても実施しています。本講座は、今年三年目となり、志を同じくする人や団体とのつながりも広がっています。

主事として地域で生きる

松本市島立公民館

主事 浅井 勇太



六年程前、初めて公民館に異動した四月の地区の総会で、自己紹介の機会をいただきました。その後、当時の会長に「この主事を生かすも殺すも皆さん次第です。」と紹介され、突然のことでも面食らったことを今でも鮮明に覚えています。使えない職員だと判断さ

れたら、どうにかなっちゃうのだろうか？一瞬のうちに様々な邪推が脳裏をよぎりました。

会長は日頃から公民館や主事の役割について理解があり、常にご協力いただいていた。それ故に、あの場での衝撃的な発言は、会長から地区役員に向けた「この地区の地域づくりには公民館主事の力も必要だ。皆さんで主事を育ててやってくれ」という強いメッセージだったのではないかと、今となっては推察しています。

公民館主事は地域の懐に飛び込み、様々な人との出会いや対話を通じて成長し、力量形成されていきます。これからも地域に育てられているという感覚を大切に、その期待に応えられるよう全力を尽くします。

ブロックニュース

南信

小さな村の大きな運動会

天龍村公民館

主事 金田 祥吾

「信州に春を告げる村」と言われる、私たちの天龍村は人口

一、〇〇〇人余の小規模の村です。村では、公民館が中心となって保育園、小学校、中学校、村民の合同大運動会を年に一回開催しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の扱いが感染症法五類になったことで、最低限の対策を講じて六月一日に実施することができました。



年々人口は減少傾向ではありませんが、地域が一体となるこの大運動会を今後も長く継続できるように、主事として思案しているところでです。

大規模なイベントを行うことはなかなか難しいことではありますが、さまざまな方のご協力を得ながら、今後も、公民館行事を開催したいと考えています。

県教委より

県立長野図書館に関わる耳寄りなお知らせ

県立長野図書館（長野市若里）

信濃教育会が設置した信濃図書館を前身として昭和四年（一九二九）に開館した同館には、七十六万点もの本や資料が所蔵されており、誰もが無料で貸出・閲覧等の利用が可能です（複写は実費負担）。現在はデジタルな情報資源の整備・充実も進めており、令和四年八月からは、長野県民はいつでもだれでもどこからでも使える「市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」」が始まり、二万冊を超える電子書籍を自由に

「公民館の基礎知識」の 発刊について

昭和五十九年に初版が発行されたから、七回の増補改訂を経て、この度、令和五年改訂版が発行されました。

今回の改訂では、コロナ禍の公民館活動、災害時における公民館の対応、SDGsへの取組み、ICTなど新しい技術の活用と情報

読むことができます。お住まいの自治体の図書館もしくは同館から利用申込ができますので、ぜひご利用ください。

さらに図書館は本の貸出だけでなく、住民の皆さんの暮らしや仕事、学びなどに役立つ情報やサービスを提供する「地域の情報拠点」です。仕事のスキルアップや生活の困りごと、また地域の課題解決への取組みなど、日々のさまざまな場面を少し前に進めたいときは、図書館の本や新聞・データベースなどのほか、司書によるレファレンスサービス（調査相談）もお気軽にご利用ください。

（文化財・生涯学習課
主任指導主事 篠原靖昌）

格差の解消、多様な主体と連携・協働、コミュニティスクールなど公民館を取り巻く情勢変化や、これからの公民館に求められる方向性や役割の理解を深めていただけるような内容を新たに盛り込むとともに、時代の変化に合わせて加筆削除を行いました。

この改訂版が、より多くの皆様に活用され、未来に向かって地域の人々が豊かに暮らしていける持

公運協だより 編集委員のつぶやき

小諸市公民館

主事 小林俊明

今年例年にならない猛暑日が続く、豪雨による災害が発生した地域があると思えば、干ばつにより農作物等に影響の出た地域もありました。異常気象が何年も続き、各地で大規模災害が毎年発生していますが、「災害は忘れたころにやってくる」と言われた頃が遠くなくなると感じます。

第63回関プロ長野大会を皆様のお力により盛会のうちに無事終了することが出来ました。ありがとうございました。（詳細は次号に掲載いたします。）



121頁 1,500円

続可能な地域づくりに役立てていただければ幸いです。